

## 1 調査の概要

### (1) 調査の背景

別府市は、九州の北東部にある大分県のほぼ中心に位置している。西側に由布岳、鶴見岳を擁し、東側は別府湾、北は数多くの史跡が散在する国東半島と接し、南側では県庁所在地である大分市との間に高崎山が存在する。由布岳・鶴見岳などの連山に囲まれ、その裾野がなだらかに別府湾へと続く扇状地を形成している、自然豊かな観光都市である。

しかし、温泉の源泉数と湧出量日本一を誇り、市内に8つの温泉郷が点在する別府市においても、近年の観光業の衰退によって、空き店舗や空き家の増加、かつて旅館等で働いていた単身者の高齢化、生活保護率の上昇などが顕著となり、地域の経済と福祉に大きな問題を抱え、この傾向は市南部に位置する浜脇・松原地区に顕著である。

JR 別府駅から南に1 kmの距離にある浜脇・松原地区は、港湾(旧楠港)、国道35号(現・国道10号)、豊州本線(現・日豊本線)を主要な交通路として、かつては別府温泉発祥の地として賑わいを見せていた。別府市の都市形成は、旧浜脇町と旧別府町周辺(旧浜脇町と旧別府町は明治39年に合併)の商業集積による中心市街地の成立を、その発端としていたのである。そして、この中心市街地は第二次世界大戦の戦災を免れたことから、今日でも、古くからの路地裏や建築物、低層密集地区が残されている。

しかし、近年では、国道10号線(別大国道)の拡幅工事、県道別府狭間線の開設工事などにより、歴史的資源ともいえる街並みの変化が引き起こされている。また、公共施設等の移転・撤退、モータリゼーションによる住民の郊外居住の加速化もあって、かつての中心市街地は人口減少と高齢化による空洞化にさらされている。統計データを紐解けば、平成20年12月時点の浜脇・松原地区の人口は5,860、世帯数は3,105、65歳以上の高齢化率は35.7%である。平成12年12月時点の数字(人口6,599、世帯数3,249、高齢化率32.7%)と比べてみても、人口減少と高齢化の傾向が続いていることが分かる。



図 1-1 県道別府狭間線の橋脚工事

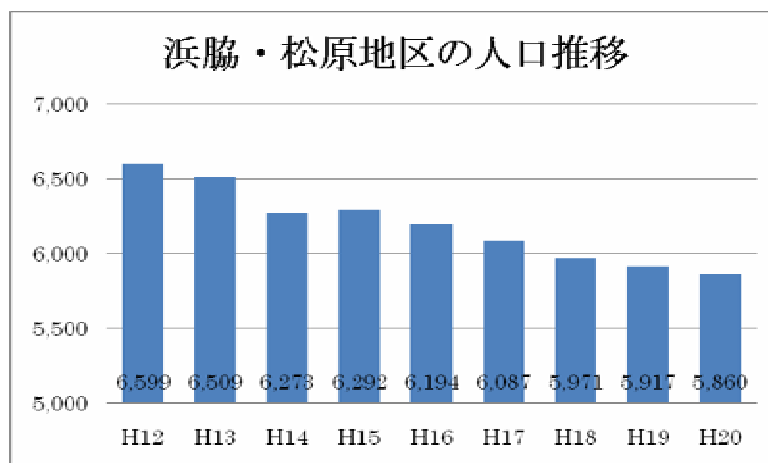


図 1-2 浜脇・松原地区の人口推移

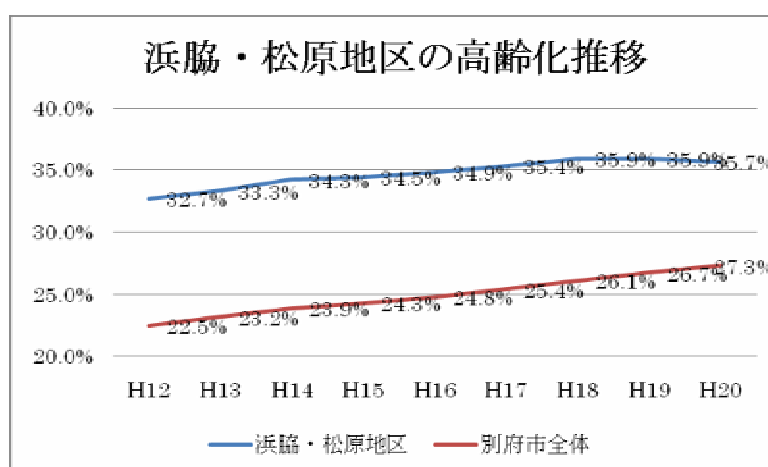


図 1-3 浜脇・松原地区の高齢化推移

## (2) 調査の内容

本事業では、このような状況を背景に、温泉を始めとする地域にある様々な資源を地域の保健福祉基盤の強化と観光活性化に向けて活用する可能性を探り、温泉と空き家等を利用し一人暮らし高齢者の食の支援と交流の場を開発するために、次のような調査を平成 20 年 9 月から平成 21 年 3 月までの 6 ヶ月間にわたって行った。

は、衰退地域に特に顕著に見られる空き家等を調査し、資源として場に活用する可能性を探るものである。 は、地域にある資源の主として運営面での活用可能性を調査するものである。 は、一人暮らし高齢者の生活史やニーズを明らかにし、効果的な支援の方法を探るためのものである。 は、支援の担い手と受け手を広げるためのツールとして地域通貨の活用可能性を調査しようとするものである。そして、 は、これらの調査結果を受けて、またこれらの調査と平行しながら、実際に地域資源を活用して交流の場を運営し、課題の抽出等を行うものである。

### 空き家、空き店舗調査；

空き家 100 軒に関する目視・写真撮影、(可能な範囲での)所有者の意向ヒアリング

### 医療機関、福祉施設調査；

- ・地域内及び周辺に所在する医療機関・福祉施設等 11 施設に対するヒアリング調査  
地域住民調査；
- ・地域住民 30 名に対する半構造化されたヒアリング調査
- 一人暮らし高齢者調査；
- ・一人暮らし高齢者 30 名に対する半構造化されたヒアリング調査
- 地域通貨調査；
- ・地域通貨「湯路」「泉都」関係者に対するヒアリング調査
- 交流の場の運営実験
- ・空家等を改修し、交流の場を運営

#### 調査対象地域

